

優秀賞 [高校生の部]

NRI学生小論文コンテスト2009
日本から未来を提案しよう！
「日本はコレで世界一になる！」

入賞作品



「介護」という日本の社会的課題を世界一に結びけた発想が秀逸。アイデアが広がりそうな点も認められました。

世界一の長寿国が、 世界一の介護用品を！

中央大学高等学校3年

須藤 日和

すどう ひより

今更ながらではあるが、日本は世界一の長寿国である。2008年の平均寿命は男女とも過去最長を記録した。日本人女性の平均寿命は86.05歳と24年連続世界第1位であり、男性は79.29歳、アイスランド、スイス、香港に次いで4位であった。しかし、平均寿命が長くなっているのは日本だけではない。最先端の医療がますます進歩を遂げたために、世界の平均寿命が毎年徐々に伸びているのだ。

少し古いデータだが平成15年の日本の65歳以上の人口は2431万人で、総人口の19.0%を占め、人口、割合とも過去最高になった。高齢者の割合はその後も上昇し続け

ており、平成27年には総人口の26%と、およそ4人に1人が65歳以上になると見込まれているようだ。欧米諸国における65歳以上の人口の割合をみると、調査年次に違いはあるものの、イタリアが18.2%、ドイツが17.1%、フランスが16.1%、イギリスが15.9%などとなっており、やはり日本が最も高い水準となっている。

現在急激に高齢化社会となった日本は、欧米をお手本としている。しかし、介護業界の人手不足や介護保険、施設運営費などの諸問題でかなり混乱しているようだ。このことはTVのニュースや新聞などで毎日のよう

世界一の長寿国が、世界一の介護用品を！

入賞作品

に伝えられている。介護による疲れが理由で心中や自殺に至ってしまう方も多い。また孤独死してしまうケースも、よく耳にするようになってしまった。施設ではヘルパーの方、自宅介護では配偶者または子の介護は、それほどまで肉体的にも精神的にも、辛いことになってしまいがちなようだ。とても悲しい現実だ。繰り返しになるが、4人に1人は高齢者なのである。

さらに、現在0歳児の将来の死亡原因として、心疾患と脳血管疾患を含む「3大死因」が50%を超え、医療の進歩でこれらの疾患が完全に治療できるようになると、平均寿命が女性は7.12年、男性が8.25年伸びると推計しているデータもある。このことから今後、寿命が長くなると推測できる。だからこそ高齢者を取り巻く環境をもっと見直す必要があると痛切に感じた。

介護に従事する方の話によると、現状は介護の重労働と賃金がアンバランスで離職率は5人に1人であり、その7割以上は3年未満で職場を去っているという。「介護する側もされる側も楽しく」という理想からは程遠い現実である。そこで、重労働であるという点から、私は介護用品に着目したい。

介護用品は、介護者が健康を損なわず、かつ効率が良くて楽に介護を行えるようなものであるべきだ。また、被介護者にも苦痛はなく、心地よいと思えるものでなくてはならな

い。「介護する側もされる側も楽しく」という理想を忘れてはならないとも思う。介護用品と言っても、多種多様である。電動いすのような大きなものからエプロンスプーンのような小さなものまでと、実に幅広い。また家の中のお風呂場やトイレ、階段などのような大掛かりなものもある。それは、日本の技術力を生かせる幅も広いということである。しかも、この分野に国境はない。便利なもの、安全で使い心地がいいものを作れば必ず世界の人々に認めてもらえるだろう。

日本人が作るものは、緻密で丁寧である。きめこまかい。至れり尽くせりである。電気製品に限らず日本製のもものは品質がよいと、諸外国にも評価されている。それに比べて外国製のもものは、どれも雑である印象が私にはある。きっと多くの日本人が感じていることであろう。例えば、我が家にある一流ブランドといわれている外国製のアイロンにはスイッチさえないのだ。コンセントにプラグを差し込めばスイッチオン、抜いたらスイッチオフという仕組みになっている。スイッチのついていないアイロンを見たことがあるだろうか。私はそのアイロンを見たときとても驚いた。それほど日本製のもものはどれも消費者にとって親切に、しかも安全に作られているのだ。消費者の立場に立って、どこをどうしたら使いやすくなるのかがよく考えられている。洋服やバッグ、家具などを見ても一目瞭然であろう。

世界一の長寿国が、世界一の介護用品を!

入賞作品

その誇れる日本の技術力を介護用品にもっと取り入れようではないか。さらに、日本は高齢者が多いのだから、被介護者が多い。ということは介護者だって多いのだ。徹底したマーケティングを行えば、意見、要望、アイデアなどが湧き出てくるに違いない。それを日本の高い技術力と融合させ商品化すると、もともとこまやかな配慮のできる我々日本人が作り出すものだから、諸外国よりも質の良い介護用品が生み出せることは間違いないであろう。

また、幼児に知育玩具が必要なように、高齢者にも高齢者用の玩具が必要だと思う。痴ほう症にならないための対策にも、リハビリのためにもだ。これらを楽しく日常的にするには玩具に限る。知育玩具は幼児だけのものという固定観念を崩す画期的な玩具を作ろうではないか。介護用品売り場でそのような玩具を見たことがない。施設などではおそらく手作りしているのだろう。ならば、アイデアはたくさんあるはずだ。しかも現場のアイデアならば、よりニーズに合った商品を作ることが可能だ。さらに、市販できれば介護者の負担は軽減することができるし、多くの人が身近に触れることができるようになる。なぜ高齢者用の玩具がないのだろうか？ 祖父母の誕生日や敬老の日など、プレゼントを考えるとときにいつも疑問であった。楽しみながら脳の活性化ができたり、指先の運動が

できたりする玩具が高齢者向けに開発されてもいいと思う。楽しいところには自然と人が集まってくる。高齢者を孤独にさせない手段にもなるだろう。公園などの遊具も改善できないだろうか。高齢者が気軽に体を動かせるような遊具を設置し、集まりやすい環境を作る。この遊具作りにも、日本の技術と理学療法などの知識を大いに生かせると思う。運動不足解消と人との関わりをなくさせないためにも実現させたい。

まだまだ介護用品は、発展する可能性がある。高齢者向け商品は、今はまだゼロに近い状況であるから、今がチャンスだ。企業がもっと介護業界の現状を重く受け止め、この業界に参入してほしい。世界一の高齢化社会の実態をリサーチして、求められているものを発見し、介護用品や高齢者向け商品に力を注ぐ必要があると思う。市場は未知の世界であり、努力しだいで利益の追求も大きく期待できる。

世界一の長寿国が、世界一の技術力を用いて、世界一の介護用品を作る!